

第11回 多職種勉強会

令和元年8月23日(金)開催

『シリーズ 連携がうまくいくコツ

いけない理由①』

松阪市では、介護と医療に関わる様々な職種の方たちが顔の見える関係を深め、地域包括ケアを推進していこうと、平成26年より勉強会を開催しています。

11回目の今回は、口から食べることを強く願う方の支援を多職種で行った事例を通して、在宅療養のあり方や多職種での関わり方について考えていただく勉強会を開催したところ、在宅での医療・介護に関わる専門職 157名が参加されました。

【話題】

『「食いたい」を叶える為に多職種で取り組んだ症例～胃ろうから経口へ～』

松阪地区歯科医師会口腔ケアステーション 歯科衛生士 近田 紀子氏
居宅介護支援事業所なでしこ苑 介護支援専門員 前村 麻子氏

今回の話題は、認知症があり、嚥下状態が低下している母親の「食いたい」を娘さんが切望されたところから、多職種での取り組みが高まっていった事例でした。

その結果、一定期間ではありましたが、お母さまは口から食べることができるようになっただけでなく、自分で食器を使い、食べ物を口に運ぶことができるまでになりました。

そんな事例を通して、関係者が気持ちを合わせることや、日ごろの連絡や相談、行動の積み重ねが様々な成果につながるることについてグループワークの中で確認しました。そして、よりよい連携のあり方について、改めて話し合い、大切なことを参加者同士で確認しあいました。



この勉強会も11回目になりました。

毎回、医療や介護の関係職種など、様々な専門性をお持ちのみなさんにご参加いただいています。また、異なる専門をお持ちの方々に顔見知りになっていただくことも大切な目的のひとつとして、毎回グループワークを勉強会の内容に含めています。

毎回ですが、最初は、初対面であることなどから緊張感がありますが、勉強会を終える頃には和気あいあいとした雰囲気に変化しています。実際の支援現場で

は、なかなか和気あいあい、とうわけにはいかないことの方が多いですので、こういう場で新しいネットワークを築き、現場で生かしていただくことができれば幸いです。

今回のグループワークでは、多職種が連携する時に大切なことも改めて整理していただきました。

たくさんの意見が各グループで出たようですが、ほとんどのグループが大切だと認識したことは「ご本人やご家族の希望、想いを理解し共有すること」「目標を統一し共有すること」「様々な情報を関係者間で共有すること」「お互いの専門性や役割を理解すること」などでした。

これらの「大切なこと」をどのように実行するかは、さらに議論を深めたいところですが、それはまた今後、様々な機会の中でみなさんと意見交換していけることと思います。

知識のない者でも意見を言いやすい雰囲気があった（消防職員）

多職種の働きが明確にされていると、どういうことを依頼できるかがよく分かったと思いました（看護師）

考えている意見が言え、他の方の専門の意見が聞けた。同じ考えを持っておられることがわかり安心した（薬剤師）

他職種で意見が異なることを実感しましたが、根本的な姿勢や気持ちは同じであるとわかり、今後連携しやすくなったと思います（精神保健福祉士）

他事業、他職種の方からの意見を聞き、自分たちが思っている以上にヘルパーの必要性を感じて頂いていることが伝わり嬉しく思いました（訪問介護）



◎松阪地域の地域包括ケア推進のため、これからもご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局：

松阪市健康福祉部高齢者支援課

☎ 53-4099 FAX 26-4035

松阪地域 在宅医療・介護連携拠点

☎ 25-3070 FAX 25-3071